

スタント・メソッド「21日ルール」の実践報告

*司会：

引き続きまして、同じく株式会社丸和運輸機関、経営企画本部部長、蘇霞様からご報告をいただきます。それでは、蘇様、よろしくお願ひいたします。

皆さん、こんにちは。ご紹介いただいた蘇霞と申します。どうぞよろしくお願ひします。

きょうのテーマは、「スタント・メソッド21日ルールの実践報告」です。私は2012年4月、早稲田大学院を卒業して丸和運輸機関に入社しました。大学院に在学中、スタント先生の2冊の本を読ませていただいて、スタント先生の大学教育における情熱と本気度にとても感動しました。2011年4月から1年間、私は先生のティーチングアシスタントとして、先生の教育理念や教育方法について理解を深めました。IME (Motivation in Education 教育におけるモチベーション) という授業中で、スタント先生は実体験を交えながら授業を進め、本気で学生とぶつかり、学生と先生、そして学生同士で白熱した弁論が行われました。

2011年から新しく取り入れたことは、授業の後の感想文以外に、週に1度400字のエッセイを提出させることにしました。そうすると、1つの学期に、感想文とエッセイをあわせて21篇以上書かせることになりました。その目的は、学生と一対一のコミュニケーションをとると同時に、「21日ルール」で、学生の思考力や文章力を高めることです。

「21日ルール」はスタント・メソッドの一つですが、それは新しい習慣を身につけるため、21日または21回繰り返してやることです。IME授業の回数を重ねていくと、学生は授業に対する取り組む姿勢や、参画する意欲などが著しく変化します。実際学生のエッセイを読むと、文章の表現や考えの深さ広さが変わりつつあります。

国際教養部の阿部さん、さきスタント先生からも少し紹介しましたが、彼には素晴らしいスタント効果が表われました。阿部さんは大学に入ってからいろいろな授業を受けてみましたが、勉強に熱心に取り組まない周りの雰囲気に自分の熱意も冷めて「引きこもり」状態になっていました。スタント先生の授業を受け、先生が本気で人と接する姿勢、教育への熱い思いに感動しました。

学校をやめたい阿部さんが一気に英国名門大学に留学することができました。毎週のエッセイを書くために、阿部さんは図書館で哲学の本、西洋の本、東洋の本等を調べ、生きる意味などについて自分の意見をまとめました。阿部さんのGPA成績はロンドン大学へ留学するための成績には遠く及ばなかったが、しかし、自分の成長をはっきり見せるため、スタント先生へ提出した全てのエッセイをそのまま留学申込書に貼り付けました。すると、選考が無事に合格、英国名門大学に留学する夢が叶いました。

阿部さんの成果を見て、私自身も「21日ルール」を実践してみました。2011年末頃、集中して21篇の漢詩やエッセイを創作しました。「128行詩」はスタント先生の波乱万丈の人生を漢詩にした作品でございます。先生のお蔭で、私は文章力に自信がつき、より多くの方に発信できるようになりました。

丸和運輸機関に入社してから、「桃太郎文化習得合宿研修会」等を通じて学んだ企業文化を15回にわたってエッセイにまとめました。これは「21日ルール」の継続効果であると言えるだろう。これは合宿研修会の風景です。研修会では、どう自分の思いを相手に伝え、相手の心を動かすか、その必死さと本気度が最も肝心です。

社内に「21日ルール」を広げる例がございます。部門朝礼の時、私は「21日ルール」を紹介しました。すると伊藤弘信さんがとても興味を示してくれました。伊藤さんは英語を上達させたいと思っていますが、何回も挫折したと話してくれました。伊藤さんに英語で21篇のエッセイを書いてもらうことにしました。2012年8月28日にスタートした「21篇のエッセイ」プロジェクトは、今まででは11篇完成しました。伊藤さんは途中やめかけた時期もありましたが、私から積極的に声をかけることで、楽しくやり続けています。伊藤さんからメッセージを届きました。

「立派だけどできない目標を掲げるよりも、小さいけどできることを確実に実行しよう！」

スタント先生の人生論と桃太郎文化には、たくさん共通点がございます。例えば、寛容、恩返し、Nothing is impossible. Never give up. 人間力を磨く、本気度などは桃太郎文化の中にも似ている言葉がございます。例えば、何事もやればできる精神、親切を尽くせ。

私は現在経営管理部で仕事をしています。会社のアジア戦略、特に中国進出をどう成功させるか、私のミッションでございます。しかし、価値観が違う国に、どう人を育成し、マネジメントをしていくか、感動教育、つまり、感動から生まれた共感共鳴こそ、成功の鍵ではないかと思います。

この場を借りまして、スタント先生を初め、私の成長を手伝っていただいた皆様に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。(拍手)